

令和3年度第1回 岡山県スポーツ推進審議会の議事概要

【開催概要】

- 日 時 令和3年8月27日（金）13:30～15:00
- 会 場 オンライン（Web会議システム Zoom を使用）
- 出席者 <委員（五十音順）>
 - 米谷会長、赤木委員、居原田委員、上田委員、坂本委員、
 - 泉水委員、長尾委員、松井委員、松本委員、森委員
 - ※委員15人中10人の出席であり、本審議会は成立
- <事務局>
 - 環境文化部：有田文化スポーツ振興監
 - 河本マラソン事務局参与
 - 宮野スポーツ振興課長
 - 保健福祉部：小寺障害福祉課長
 - 教 育 庁：山本保健体育課長

1 開 会

2 あいさつ

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・新型コロナウイルス感染症の影響は、スポーツ界にも大きな影響を及ぼしているが、新しい生活様式のもとで、スポーツ活動を止めないための努力が続いている。
- ・こうした難しい状況の中、東京2020オリンピックで、原田選手、山本選手が金メダルを獲得したのをはじめとして、本県ゆかりの選手が活躍したことは明るい話題であり、スポーツの持つ力や可能性を改めて認識した。
- ・今後とも、スポーツの力で地域を元気づけられるよう一層のスポーツ振興に取り組んで参りたい。

3 議 事

※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。

(1) 岡山県スポーツ推進計画の変更について

資料 1 P. 1

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑

- ・質疑、意見等なく全会一致で承認された。

(2) 岡山県スポーツ推進計画の進捗状況（2020年度実績）について

資料 1 P. 2～35

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

①幼児期からの運動・スポーツ活動の基盤づくりの推進（P4）について （委員）

- ・「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」などの研修会を開催されているが、コロナの影響がある中での開催はご苦労されたことと思う。感染防止にどのような工夫をしたのか、また、よかった点などあればご紹介いただきたい。
- ・受講された方の感想やその後の活躍状況などあれば教えていただきたい。

（スポーツ振興課長）

- ・研修については、一般的なコロナ感染対策同様に、広めの会場を使用し、一回当たりの参加人数を減らすなど、密になりにくい工夫を行ったほか、出席者の検温や消毒などの対策をとって実施した。
- ・昨年度はまず、研修受講者を増やすことを目標に取り組んだところだが、受講された方が、今度は自身が講師となって、学んだ知識を地域に伝達する講習を実施しており、研修受講者が増えるにつれ、だんだん幼児期の子どもに対するスポーツ指導の輪が広がっている。

②「成年期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進」
(P7) について

(委員)

・数値目標として「成人男女の1週間に1日以上運動・スポーツをする割合」等を掲げているが、スポーツ実施率については具体的にどのような手法で把握していくのか。

(スポーツ振興課長)

・毎年、県において無作為抽出による県民満足度調査を実施しており、その中でスポーツ実施率についても設問を設けている。年代別に集計されており、実施率を図るのに有意な調査数値と考えている。

③評価方法、今後の施策等について

(委員)

・コロナの影響が大きい中、生涯スポーツ、競技スポーツともこのような低評価となったのだと思う。ゼロコロナかウィズコロナか難しいところであるが、トップアスリートを見ると感動する。スポーツの持つ力は大きい。子どもたちがのびのびとスポーツを楽しみたいのにできない状況が続いているのは残念だが、子どもたちをスポーツに誘うような施策をぜひとも考えてもらいたい。

(スポーツ振興課長)

・ゼロコロナはなかなか見通せない状況ではあるが、スポーツの火を消してはいけない、というのは我々の大きな課題である。昨年度は、一例を挙げると、岡山県の5つのトップクラブチームのホームゲームに県民の無料招待を実施し、スポーツへの関心を取り戻し、地域を活性化するという取組を行った。

・また、競技人口が少ないスポーツの間口を広げる取組として、「ステップアップおかやまアスリート事業」として、子どもを対象とした競技の体験会を実施したほか、来年度に向けては、オリパラを契機としてスポーツ活動が活性化されるような施策を考えているところである。

(委員)

・昨年度はコロナによって施設が休館していたり、使用できなかったりと、事業を実施しようにもハード面の制約が大きかった。進捗状況の評価を行う際に、非常に困難だったのではないかと推察されるがいかがか。

・今年度も同じ状況が続いており、スポーツ活動の中に身を置くことそのものが難しい中、体力が落ちていたり、競技力が落ちたりすることが懸念されるがいかがか。

(スポーツ振興課長)

- ・ご指摘のとおり、評価については非常に苦慮したところである。コロナが拡大する中で、制約を受けつつもできる限りのことが実施できた項目は3あるいは4でよいのではないかと、「努力」や「過程」を評価するという考え方もあったが、各項目とも数値目標を定めているため、目標が達成できているかいないか、という「結果」に重きを置き、また、コロナからの早期の回復を願って、厳しめの自己評価としたものである。

(保健体育課長)

- ・コロナの影響で、昨年度は、部活動への参加がままならないだけでなく、学校そのものが休校となり、子どもたちがスポーツに取り組む機会が失われるなど非常に厳しい状況となった。そもそも、本県では子どもたちの体力低下が課題となっていたが、それに追い打ちをかけるような状況となった。昨年度は実施できなかった新体力テストは、今年度は可能な範囲で実施できているため、この結果等を見ながら、子どもの体力向上に向けた取組を行いたいと考えている。
- ・部活動の成績については、今年度開催されたインターハイの結果速報では、昨年度までの入賞数には及ばないものの、大きな低下は見られず、中国5県の中では、最も良い入賞数を維持できている。全中についても、本県選手は、多数の活躍があったと聞いている。制約のある中でも、各校で工夫した取組等により競技力の維持が図られている結果となっている。
- ・子どもたちをスポーツに誘うための取組としても、子どもが、最初にスポーツに触れる機会である体育の授業は非常に重要である。教育委員会では、全ての子ども達が楽しいと感じる体育授業の実施に向けて、指導主事の派遣による研修支援を行っている。このような草の根運動的な取組と、スポーツ振興課で取り組んでいるようなトップアスリートに触れ合う機会を作る取組は、今後も並行して実施していき、スポーツの楽しさを伝えていきたい。

(委員)

- ・全中の県予選は、今年度は感染症対策を行いながらなんとか実施できた。参加した多くの生徒たちが、大会があつてよかった、練習の成果を発揮できる場があつてよかったと言っていたことがうれしかった。
- ・上位大会である中国大会、全国大会も今年度は実施されたが、感染症対策を行いながらの運営は大変だったと推察され、感謝している。そうした、周囲の支えがあつた中で成果を発揮する場をもてたという経験は、子ども達の思い出になり、また、今後の人生の力になっていくのではないかと思う。

④障害者スポーツ、地域スポーツ等について

(委員)

- ・障害者のスポーツ教室は、昨年度は全面中止だったが、今年度は、現在は中止されているが、8月中旬まではなんとか実施できた。ソフトボールや、フライングディスクなど、新しい参加者もあり、再開を待ち望んでいたのだろうと推察され、実施できなかつた期間を心苦しく感じた。
- ・全国障害者スポーツ大会については、3大会連続中止ということになり、非常に残念だが、状況が落ち着けば、スポーツに触れる機会を増やしていけたらと思う。
- ・オリパラ関連事業では、小学生や中学生に、ボッチャを体験してもらうなど、障害者スポーツを広く知ってもらうことができた。今後も、時期を見ながら普及啓発に取り組んでいきたい。

(委員)

- ・高齢者の健康維持のための体操に取り組んでいたが、昨年度はコロナにより実施できなかつた。今年度6月ごろに再開できたが、久しぶりに実施すると重りが重たいなあという感想が出るなど、体力の低下を感じた。
- ・集まろうにも集まらない状況が続くと思われるが、健康維持のために、コロナ禍でもできることを実施していきたい。

(委員)

- ・総合型地域スポーツクラブについては、徐々に市町村の理解が高まってきていると思う。来年度、予定より1年遅れで、総合型クラブの認証制度が全国で開始される。市町村の協力が一層不可欠になってくるので、総合型クラブへの理解が深まるよう調整を行っていただき、県下44クラブの1つでも多く、認証登録できるよう連携・協力していきたい。

(委員)

- ・わたしの住んでいる地域にも総合型はあるが、地域に根ざして、いろいろなスポーツ活動の支援をやっている。県のスポーツ界全体でバックアップしていければと思う。

(委員)

- ・コロナに対する対策をいくらとっても、リスクをゼロにすることは難しい。例えば、スポーツ庁の各競技別のガイドラインを参考にして、感染対策の責任者を各競技団体ごとに任命し、感染防止、熱中症対策、ケガ防止など、選手への教育・助言や、感染者の隔離措置、医療機関へ繋ぐ役割を担ってもらってはどうか。感染者は被害者であり、誰しも可能性はあるという意識をチーム全体で共有し、その上で、チーム内で濃厚接触者を出さない対策を普段から実施していければよいのではないか。

(会長)

- ・本日、緊急事態宣言が発出されたが、こうした環境の中でもスポーツ活動を継続していかなければならない。ご提案のような取組が必要と痛感する。

- ・選手の育成だけでなく、地域のスポーツ活動や障害者スポーツ活動の指導者やボランティア等支える方についても苦労があったと推察される。少しずつでも、前向きに取り組んでいけたらと考える。

⑤選手に対するケアについて

(委員)

- ・国体は2年連続中止となってしまったが、昨年度の鹿児島国体の中止と、今年度の三重国体の中止は事情が異なる。鹿児島国体では、代表選手が選出される地方大会も全て中止となったが、今年度については、各地区のブロック大会が実施され、既に代表選手が選出されてからの中止決定となってしまった。
- ・岡山県では、毎年600人ほど国体に選手を派遣しているが、国体が中止になったことで選手たちはショックを受けたり、茫然としたりしていた。また来年頑張れ、来年までモチベーションを保て、と言うのは酷であり、選手に対するケアが何か必要ではないかと考えるが、みなさんのご意見をおうかがいしたい。

(委員)

- ・昨年度は高校野球も全国大会は実施できなかったが、甲子園において、代替試合はできた。ただ、昨今のコロナの感染拡大状況は危機的であり、パラリンピックの学校観戦のように、教育的観点からは必要であっても、医学的観点からは推奨できないこともある。
- ・しかし、チャンス子どもたちに与えることを考えなければならない。代表に選ばれた、という何らかの跡を残してあげたほうがよいと思う。

(委員)

- ・2005年の岡山国体では、備前のテニス会場の責任者を務めた。5年間国体準備にかかわった立場で言うと、開催に向けて苦労する中で、直前の中止はかなりショックなのではないかと思う。せっかく代表に選出された選手には、何か、形でそれが残ればよいと思うが、先が見通せない中で、具体的に何ができるかというのは難しいところである。

(委員)

- ・全国障害者スポーツ大会はコロナ前の台風による中止も含めて3大会が連続して中止になった。そのため、県大会だけでも何とかできないかと検討を進めたが、コロナの感染状況が好転せず、結局、実施できなかった。選手の心のケアというのは大事な観点だということは同感である。どのようなケアができるか知恵を拝借したいのと同時に、代替措置として何ができるか、コロナの状況を見ながらお互いに情報交換して考えていければと思う。

(スポーツ振興課長)

- ・三重国体の中止決定の速報が流れたのは、まさに、代表選手を選出するためのブロック大会開催中のことであり、競技中の選手の心情は本当に大変だったと推察される。選手のモチベーションを下げずに来年に繋げる、というのは軽々しく口にできるものではないので、ご意見をいただいたように、何らかの方法で選手が報われ、跡を残すことができるよう、関係機関と情報交換をしながら、早急に考えて行きたい。

⑥総括

(会長)

- ・進捗状況については、承認された。
- ・評価については新型コロナの影響で下がっているが、委員の方にいただいた意見をしっかり反映して、次に繋げていただきたい。

4 報告事項 資料2

(1) 聖火フェスティバルについて

■事務局説明 (障害福祉課長)

資料に沿って説明

(2) 聖火リレーについて

■事務局説明 (スポーツ振興課長)

資料に沿って説明

(3) オリンピック・パラリンピック事前キャンプについて

■事務局説明 (スポーツ振興課長)

資料に沿って説明

(4) 岡山県出身の五輪選手の活躍について

■事務局説明 (スポーツ振興課長)

資料に沿って説明

(5) 岡山武道館新練習道場の完成について

■事務局説明 (スポーツ振興課長)

資料に沿って説明

(6) おかやまマラソンについて

- 事務局説明（環境文化部参与）
資料に沿って説明

(7) 令和3年度全国高等学校体育大会の成績について

- 後日資料配付

(8) 令和3年度全国中学校体育大会の成績について

- 後日資料配付

6 閉 会

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・本日は貴重な意見を頂戴し、感謝申し上げます。
- ・オリンピック・パラリンピックの選手の活躍を将来を担う子ども達の心に刻めるよう、この機会を逃さず施策を推進して参りたい。

以上